

福祉の広場

学区福祉の概況

人 口 2,746人
世 帯 数 1,172世帯
65 歳 以上 888人
65歳以上の割合 32.33%
(R 3 年 2 月 1 日現在)



南庄 伏龍祠

「令和」の時代も3年目を迎え、昨年は年初来より新型コロナウイルスの感染拡大で世界中が大変な脅威と対峙する年となりました。

令和2年度は国全体が自粛自粛で我が伊香立学区におきましても3密を避け、あらゆる面で行事や活動を中止せざるを得ない1年となりました。未だに終息の目処がつかない状況下、今後の対応が危惧されるところであります。

学区社会福祉協議会（通称、学区社協）として、地域の福祉の向上に向けて、社協の構成員である各種団体の皆さんとともに各事業に取り組み計画を総会（書面議決）にて承認いただきましたが、全面的な計画見直しで計画縮小の取組となりました。

コロナ禍における我々を取り巻く環境は厳しさを増し、偏見や差別が生まれ、様々な新たな事故や事件が毎日のようにマスコミに取り上げられています。子供への虐待、自殺、いじめなど大変な世の中に目を覆うばかりであります。



伊香立学区社会福祉協議会 会長

徳本

勉

コロナ禍における
地域福祉活動について

また一方では、これまで経験したことのない自然災害が頻繁に起こり、我々の生活を脅かしています。我がふるさと「伊香立」が安心して暮らせるまちであり続けるために防災体制の確立と常日頃の防災訓練の重要性を強く感じるところであります。

当学区社協は、組織ができて既に長い歴史があり、これまでの関係者の努力により立派に活動成果を修めてきました。今後は、コロナ禍の時代に対して如何に地元地域の福祉活動に取り組んでいくべきか構成団体である各種団体のみんなが知恵を出し合い「住みよい安全安心なまちづくり」に取り組んでまいります。

今後とも学区民の皆さんの更なるご支援ご協力により所期の目的が達成できますようお願いいたします。ご挨拶いたします。

2020年度 活動報告

- ・総会（書面議決方式）
- ・福祉委員会
- ・福祉委員研修会
- ・防災合同研修会
- ・戦没者慰霊法要（人員縮小）
- ・募金活動
- ・「福祉の広場」発行

- ・月例 高齢者給食サービス（軽食に替えて）
- ・月例 社協役員会

防災出前講座でDI-G訓練を体験

伊香立地区民児協では、11月10日に、コロナ対策の下、市社協災害ボランティアセンターから講師を招いて、社協福祉委員との合同による「防災研修」を行いました。

当研修は、防災に関する講義と図上訓練の二部構成で行われ、まず、講義では、風水害や地震に関する情報と備え、避難時の心得等のほか、急傾斜地の多い当地域の特性、危険箇所、断層の位置など、この現場写真を用いての解説を受け、防災を身近に受け止める良い機会となりました。

続くDI-G訓練では、2班に分かれて、机上に住宅地図を貼り合わせて作った当学区の全図を基に、主要道路や河川、池、広場等を色分けしてマジックでなぞったり、避難所となる建物や災害弱者施設となる建物、要援護者宅などに色別大小のシールを貼るなどして、わが町の構造や人的物的防災資源を確認する作業を行いました。その上で、当地域の特徴や防災スマイナス要因を話し合い、防災・減災対策を考えるというものでしたが、時間が

令和2年度

福祉委員名簿

南庄	東 まち子	鎌田 早苗	辻本美喜子	松本 敏枝	伊勢田久美子	上在 地	本 田 和子	藤本 義子	北在 地
下在 地	越後 由美	山口美弥子	山田 美絵	由本 恵子	山口あおい	下龍華	小門 孝子	上龍華	西村 榮子
途 中	西山 真紀								

足らずここまでには至りませんでした。

DI-G（ディグ）とは、Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）を略したもので、災害を理解し、まちを探求し、防災意識を掘り起こす手法だそうです。

当地域は、集落が点在する広いエリアにあり、自分の町以外はよくわかっていないというのが参加者の実感で、時間が足りなかったこともあり、今後、自治会単位での訓練や学区全域の把握と連携を図るための訓練として継続発展した形でのDI-G訓練が期待されます。

『戦後七十五年、今大切なこと』
— 平和への願いをどう繋げるか —
遺族会会長 藤本 一夫

日常の生活の中で平和の尊さを感じ、悲惨な戦争等の紛争を二度と繰り返さない決意は国民の最大の願いであり、私たちが将来に渡り忘れてはならないと憲法の中に記されています。

しかしながら今の平和と繁栄が尊い命の犠牲の上に成り立っていることを実感する機会は少なくなっています。

伊香立学区では社会福祉協議会や自治連合会をはじめ各種団体の方々の力で毎年九月に戦没者慰霊法要を行って頂いています。

今般、遺族会では戦争の悲惨さや平和

共同募金・歳末たすけあい運動募金
ご協力ありがとうございました！

（募金の内訳）

種 別	金額（円）	使 途
共 同 募 金	341,000	県内・市内の 社会福祉活動費
戸 別 募 金	126,000	
※ 大 口 募 金	215,000	
歳末たすけあい運動募金	437,998	伊香立学区内の社会福祉活動費
合 計	778,998	

※ 1口1,000円以上の募金

（歳末たすけあい運動募金）

種 別	金額（円）
戸 別 募 金（10自治会）	424,150
そ の 他 個 人 募 金	13,848
合 計	437,998

内 容	金額（円）
市社会福祉協議会拠出金（施設助成金用財源）	9,450
個人配分（ひとり親・在宅要支援高齢者等）	168,000
地 域 福 祉 活 動 費	260,273
高 齢 者 給 食 サ ー ビ ス 事 業 助 成	105,273
ふ れ あ い サ ロ ン 活 動 助 成	45,000
保育園・幼稚園・児童クラブ福祉交流活動費助成	60,000
小学校・中学校福祉教育活動費助成	50,000
事 務 費（消 耗 品 費）	275
合 計	437,998

★内訳★

★使いみち★

編集後記

今号は「コロナ禍特集」を企画しましたが、編集会議におきましても感染予防に努めて開催してきました。コロナの感染拡大は、私たちの日常生活にも様々な影響が出ておりますが、改めて考え直す機会となりました。

この度の「福祉の広場」発行に際し、大変な中ご寄稿いただきました皆さまに、厚くお礼申し上げます。

久保・寺田

コロナ禍の今だから ～地域の取り組み～

南庄ふれあいサロン 実施に当たって

南庄ふれあいサロン 代表 小西 ふじ子

令和2年は、コロナ禍の1年で、そんな中でふれあいサロンは、毎回緊張感いっぱいでした。昨年3月より6月までは自粛をし、7月の七夕サロンから「早くコロナが終息しますように」、「コロナに負けないで元気に過ごせますように」と願いをこめての開催でした。自治会館大会議室の広々とした部屋をお借りできる幸せをかみしめ、お一人お一人集われる方々にまずマスクを着けて頂いて、入口で手の消毒、そして先日学区社協より頂いた非接触型温度計による体温測定をしてお元気な様子を確認して始めたサロンでした。福祉委員さん始めボランティアの皆様が気持ち良くお手伝い下さるおかげで、毎回楽しく盛り上がるサロンを開かせて頂いております。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。何とか喜んで頂きたい、お元気で毎日過ごして頂きたい、認知症や寝たきりにならない様にと願いつつ、今日まで開催できました。そしてこれからも益々お元気で一人でもたくさんの方が喜んでお集まり頂けるようサロンをめざします。



第1回 福祉委員会研修会 コロナ禍での福祉活動について

福祉委員会 委員長 本田 和子

伊香立学区福祉委員会では、毎年自主研修会を開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染症流行により自粛期間が続いたため8月に開催となりました。「コロナ禍での福祉活動について」のテーマで講師山口氏を招いて学ばせて頂きました。その中でフィジカルディスタンスを耳にしました。その意味は人と人のつながりは引き続き保ちながら、前向きな取り組みを進めるとのことです。このような状況の中、人への誹謗中傷のない地域でありますようにと強調されていました。

また、聴くが効く・とにかく人の話を聴く・困った時には「まあいいか」と少し気を楽にしてみよう・みんな一緒にぼちぼちいこうか!!と心に負担のない日常が大切だと、たくさんの方の気づきを頂きました。この時にこそ福祉委員会として、地域の人心を繋げていきたいと思いました。研修の後、地域ごとの福祉活動状況を発表し合い、例年のような集まりが出来ていないところがほとんどではありましたが、10月ごろより地域によって良い形で再開されています。今後感染予防をしながら活動を進めていきたいと思いました。

コロナ禍における 軽食サービス

受給者の皆さまに、軽食サービスについてのアンケートの回答をしていただきました。皆さん「楽しみです」と、軽食サービスを心待ちにしてくださっています。

その中でも、「これ良かったー」の声としては、手軽にお湯を注ぐだけのインスタントのスープ・味噌汁・紅茶、レンジで温めるごはん系、惣菜、バナナなどがあがっていました。

また、「買い物にも行けないので助かる」、「気の毒なので、しばらく休んでも良いで」とのお気遣いの声も頂戴しましたが、「軽食サービスが続けてほしい」という回答も多数いただき、嬉しく思っています。

まだまだコロナ禍は続きそうです。早くコロナが終息して、皆さまに手作り弁当をお届けできることを願っています。



コロナ禍の子どもたち

3つの質問から、子どもたちや
校舎の“今”をお聞きました。

- Q1 コロナ禍における気になる姿について(生活・遊び・学習)
Q2 コロナ禍における好ましい姿について
Q3 Q1・2に見られる姿から工夫・努力している取り組みについて



中学校

伊香立中学校 校長 木村 公則

Q1 学校生活における新型コロナウイルス感染拡大の影響は大変大きいものがあります。修学旅行や校外学習は、目的や行程を大幅に変更しました。体育大会や文化祭も縮小せざるを得ず、行事を通して成長する大きな機会が、残念ながら一部実現できませんでした。

また、例年ですと地域の夏まつりなどに参加させていただき、地域交流が行えるのですが、できませんでした。さらに、入学式や学校行事に地域の方々と来賓としてお迎えすることができず、生徒の様子を見ていただけなかったことも残念です。

学習面では、2か月の閉校期間がありましたが、授業の進度は何とか取り戻せました。しかしながら、音楽では合唱やリコーダー演奏が十分できない、体育では柔道の乱取りができない、家庭科では調理実習ができないなど、教育課程が一部制限されることで、生徒への影響が気になります。

家庭生活では、屋外での遊びや活動が制限を受けたため、自宅でのスマホ・ゲームなどへの依存や、運動不足も気になります。

Q2 コロナ禍でのさまざまな制限が、学校生活でもありますが、生徒たちはしっかりとマスク着用や手洗いなどを励行し、感染対策に意識を持って過ごしています。また生徒会ではコロナ禍でのいじめ防止キャンペーンも実施しました。

授業や部活動、生徒会活動等にも意欲的に取り組んでいる姿は、さまざまな制限がある中、大変すばらしいと感じています。これらは、各家庭の教育力があるからだと感じます。

Q3 中学校では、全職員が感染対策に細心の注意を払い、教室を始め、トイレ、廊下など徹底した消毒をおこなっています。また、PTAの協力のもと、全生徒への布マスク配布などもおこなわれました。

生活面では、このような状況下で忘れがちな、仲間の良いところを見つけるため、「ほめ達＝ほめる達人」になろうと、学校を挙げて呼びかけ、うるおいのある学校づくりをすすめています。また、教育相談もきめ細かく実施をしています。

学習面では、従来からおこなっている放課後の自主学習をすすめています。また、アクアリウム活動は今年度全校体制で毎週水曜日に活動をしています。

様々な制限のある中ですが、今後とも地域の皆様の中学校へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

小学校

伊香立小学校 校長 古谷 知子

4月の緊急事態宣言でやむなく登校3日で臨時休校となりました。この2カ月の休校は、子どもたちにとっても、学校にとっても大きなダメージとなりました。

まず、新1年生にとっては、わくわくドキドキで迎えた入学式であったはずでした。新しい学校、先生、友だちに思いを膨らませて新1年生として「がんばろう」と思っていたにもかかわらずいきなりの休校。本来なら、4月は学校での規範意識を育て、学びの基礎基本をじっくり身につけていくべき時でもあるので、そうした学習の機会がなくなることに不安を感じました。

学校が再開し、もう1度、振り出しに戻り、一からのスタートでした。学校における規範意識が身についてきたかなと思えるようになったのは、1学期ももう終わりに近づいたころでしょうか。慣れない道の登下校、ソーシャルディスタンスやマスク着用などの制限もあり、1年生にとっては負担もあったことでしょう。高学年の児童は、そうした下学年の様子を暖かい目で見守り、支えになったり、励ましてくれたりしました。今では、そんな1年生も始業時間に余裕で間に合うほど、しっかりと足どりで登校しています。大きく成長しました。

コロナ禍で学校行事も多く制限され、本年度する予定であった地域との交流をはじめ、子どもたちの姿を保護者の方にも充分に見てもらう機会が減り、大変申し訳なく感じております。児童集会でさえも、すべて放送のみでしかできませんでした。しかし唯一、全校児童で集った機会がありました。それが運動会に変わって行った体育発表会でした。6年生児童が「最後の運動会だから全校の前で表現をしたい。」と校長に願い出て来てくれたのがきっかけでした。当日、6年生は音楽会の発表がわりに和太鼓の演奏と力強いソーラン節を披露しました。やはり6年の勇姿は下学年にとって良い影響を及ぼす結果となりました。6年生にとっても貴重な体験でした。これからまだまだコロナと付き合っていくかねばなりません。そんな中でも子どもたちの笑顔がたくさん見られる学校づくりをしていきたいと考えています。

(Q1、Q2、Q3まとめて、回答いただきました。)

幼稚園

伊香立幼稚園・真野幼稚園
園長 大矢 明

Q1 ・これまで以上に外で遊ぶ機会が減ったこともあり、子どもたちの体力については懸念するところでした。

・幼児は特にストレスを感じている様子はありませんが、家庭でもそうとう気をつけていただいているかと思えます。外出を控える、また、黙っておいたほうがいかなど考える方もいらっしゃるように思います。

Q2 ・4、5月と休園しましたが、家庭で子どもたちとしっかりと向き合っていたことが伺えます。生活習慣の乱れもなく、安心して登園することができました。例年4月の年度当初のような不安げな姿ではなく、しっかりと顔立ちで登園してくれたことはうれしかったです。

・子どもたちにも健康管理の意識が高まっています。このことはコロナだからと言うことでなく継続して行いたいと考えています。

Q3 ・なにより、これまでと同じように園生活や行事を行うことができません。できることを様々に考え、子どもを一番に考えてきました。保護者の皆様にもご理解ご協力いただけたことはうれしいことです。

・休園期間中に、今年度の方向性や園経営についてじっくりと考える時間をいただきました。ピオトープや丸太を使った遊具など新しい環境は子どもたちの遊びを豊かなものにしました。これまでとは異なる新しい形を模索しているところでした。

保育園

伊香立保育園 園長 中川 恵理子

Q1 保育園の子どもたちは、特に気になるという姿はなく、毎日元気に登園しています。マスクは感染予防に欠かせないものです。低年齢ではうまく着用できないこともありますが、大きい子どもたちは、マスクを着用し、感染予防もしています。子どもたちは友達と遊ぶことが大好きです。触れあって遊ぶことは密になる、食事時に会話をしてはいけない…と考えることは多いですが、健康観察、消毒(手指、環境)、換気など感染対策をし、今この時期にしかできないことを大切に過ごしています。

Q2 子どもたちは、手洗いをしっかりとできるようになりました。手洗いの歌(各部分がしっかりと洗えるようになっていきます)に合わせて、冬の冷たい水でも楽しみながら丁寧に洗っています。手指の消毒も進んでしています。食事の時には互いに座る、大きな声では話さないなど、子ども同士で気をつける意識も高まっています。寒くてもお天気のよい日は、戸外で土手のぼりやおにごっこなど体をたくさん動かして体力づくりをしています。コロナに負けないぞと頑張っています。

Q3 普段の子どもたちの生活が変わらないように、室内や玩具の消毒、手指消毒、体調管理をしっかりと行うようにしています。行事など例年していたことができなくても、子どもたちが楽しめるようにするためにはどうすればよいかと、職員間で話し合いを重ねて計画し、形を変えながらも経験してほしい内容を考え進めています。夏のプールも今年度はできませんでしたが、園庭中に川を掘り、水をいっぱい流して、思い切りどろんどろんで遊ばせています。クッキングも消毒の強化をしながら『旬』を逃さず味わっています。地域の方との触れ合いは残念ながらできない状況ですが「コロナだからできない」ではなく「できることをしよう」と保育に願いを持ち進めています。体調管理を今後もしっかりと、少しの変化も見逃さず家庭と連携をとることが大切だと感じています。